

我が九条

京都市立九条中学校

発行日：令和3年11月1日

発行者：校長 三科 俊一

学校だより 11月号

修学旅行を終えて

10月25日（月）から2泊3日の旅程で修学旅行（信州方面）にいってきました。今年度も無事修学旅行を実施できることを大変うれしく思っております。また、保護者の皆様にはご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。宿舎や体験活動等をお世話していただいた方々には、心のこもったおもてなしをいただき、感謝申し上げます。その中で、「EXアドベンチャー」という冒険教育プログラムで生徒の皆さんのが体感したことから記事を書くことにしました。

「EXアドベンチャー」では「一步踏み出す勇気」と「三つの“わ”」を独自テーマとして設定されました。課題に対して勇気を持って一步踏み出すこと、三つの“わ”である“会話・平和・輪”はSDGsへの取り組みにおいても活用できるものであると考えられていました。このプログラムには、ハイエレメントという高所でのアスレティックと、ローエレメントという地上で、仲間が心を一つにして課題をこなすものがありました。高所でのアスレティックは、かなり恐怖心があったと思いますが、一步踏み出す勇気を持って取り組んでくれていました。また、ローエレメントは、仲間と一緒にになって課題をこなすうちに、自然と一体感が出てきたと思います。



「一步踏み出す勇気」

「一步踏み出す勇気」をもつには、やはり、自分に自信が持てることが重要になると思います。「私はできるんだ…。」という「自己効力感」をもつことが自信につながり、新しいことにチャレンジする第一歩を踏みがさせてくれる力になると思います。自己効力感は「小さな成功体験の積み重ね」で育っていくとされています。どんな小さなことでも「やってみよう」と思ったことを頑張ってみてください。達成するまでの期間が長いようなことにチャレンジするときは、小さなゴール（目標）をたくさん設けてください。小さなゴール（目標）に到達したら、その都度自分をほめてあげてください。「小さな成功体験の積み重ね」は、いつしか大きな変化・成長につながってきますよ。さあ、小さくとも構いません、一步踏み出して、前に進んでみましょう。



読書のすすめ

めっきり涼しくなり、秋を感じる時期になりました。秋といえば、皆さんにとってどんな「〇〇の秋」ですか。今月号では「読書の秋」として、「読書のすすめ」をとりあげてみたいと思います。ちなみに「読書の秋」の由来を調べてみると、古代中国の漢詩だそうです。詠んだのは唐代の詩人として高名な韓愈（かんゆ）さんの詩の一説だそうです。それがきっかけで、涼しい秋の夜は読書に適しているという考えが浸透したと言われています。また、「読書の秋」の考え方や習慣が日本に根付いたのは、夏目漱石さんが1908年に発表した小説「三四郎」でこの詩を引用したことがきっかけとされています。ちょっとした雑学でした。

「社会に出るあなたにつたえたい『なぜ読解力が必要なのか』」(池上 彰著 講談社+α新書)

職員室前の「図書コーナー」にこの本がありました。図書支援員のT先生がおすすめの本を紹介していただいているコーナーです。本校で育成を目指す資質・能力の一つ「課題発見力」に関連していることなので、手に取って読んでみました。さすがテレビ番組などでニュースをわかりやすく解説されている池上さんだけに非常に読みやすいものでした。また、「なぜ読解力が必要なんですか?」という問いに、少しですがうまく答えられそう自分になれたような気になりました。そこで、池上さんが述べられている「読解力」の必要性、大切さについて、皆さんにもほんの一部ですが紹介をさせてもらいます。

さてこの「読解力」、訓読みをすれば「読み解く力」ですが、これはそもそもどんな力を指すのでしょうか。

「小説を読んで登場人物の気持ちを想像する」「評論を読んで著者の主張を考える」といった、国語の授業で問われていたことを思い浮かべる方が多いかもしれません。

それももちろん「読解力」で、学びの場で重視される力です。しかし私は読解力というものを、もっと広義にとらえたほうがいいのではないかと考えています。

読解力は、国語の授業中だけではなく、生きていく上で常に必要となる力です。日常生活においても、住宅や携帯電話の契約書、税金や保険の手続き書類、友人とのメールやSNSでのやりとりなど、正しく理解すべき文章は身の回りにあふれています。

（中略）

たとえば「大丈夫」という言葉は、状況次第でさまざまな意味にとれるため、読解力がいる言葉だと言えるでしょう。転んだ子どもに「大丈夫?」と聞いて、相手が笑顔で元気よく「大丈夫!」と答えたたら、「そんなに痛くなかったよ」だと「問題ないよ」とかいった意味になるでしょう。しかし元気がなく口数が少なくなった同僚に「大丈夫?」と聞くという状況では、相手がいくら「大丈夫です!」と言ったとしても、それは心配させまいという気遣いだったり、強がりだったりで、本当は大丈夫ではない、と読み解くほうが自然でしょう。

他にも「その発想はユニークだね」というセリフを、あなたはどう受け止めるでしょうか。これも状況によって「独創的で本当に素晴らしい」という賞賛なのか、「面白いけれど、ウチの会社の実情を考えたら到底無理だね」という含みのある言い方なのか、「面白いけどウケ狙いでしょ?」と呆れているのか、あるいは「話にならないよ」と馬鹿にしているのか、さまざまな意味に読み解けるのではないかでしょうか。（後略）

いかがでしたか。「宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。そして何よりも、宝物を毎日味わうことが出来るのだ。」

～ウォルト・ディズニー～

